

KINGCA WEEK 2024 に参加して

藤田医科大学岡崎医療センター消化器外科、藤田医科大学総合消化器外科

中村謙一

この度は、ソウルの Lotte Hotel Seoul で 2024 年 9 月 26 日から 28 日まで開催された KINGCA WEEK 2024 に参加するにあたり、ご支援を賜り誠にありがとうございました。私にとって、KINGCA WEEK への参加は今回が初めてであり、当大学の宇山一朗教授および須田康一教授とともに参加させていただきました。今回は、コロナ禍が明けてから初の海外学会での参加となり、5 年ぶりの海外学会での発表でもありました。韓国に訪れるのは 20 年ぶりで、明洞の雰囲気が一変しており、かつて多く見られた日本語の看板もあまり見られなくなっており、時の流れを感じました。

2024 年 9 月 26 日には、獨協医科大学の小嶋教授が座長を務められた Oral presentation のセッションにて、「Our experience in Gastrectomy using hinotori™ Surgical Robot System」というタイトルで、当科が 2018 年から Medicaloid 社および Sysmex 社と共同で開発してきたロボット「hinotori™」の手術導入過程、その初期成績、さらに 2023 年に行われた hinotori™の遠隔手術機能を用いたシンガポールと日本間での胃モデルを使用した遠隔手術実験について報告いたしました。

学会を通じて、韓国や諸外国で行われている Neoadjuvant Chemotherapy+外科手術に関する多くの臨床試験の発表を拝聴し、日本の現状との違いを強く感じました。手術手技の発表では、アジアの多くの外科医が、我々の諸先輩方が築き上げてきた低侵襲手術における精緻なリンパ節郭清、安全な再建法を踏襲しており、日本が胃癌治療におけるリーダーであることを再認識いたしました。

9 月 27 日には、金谷誠一郎先生、Woo Jin Hyung 先生、宇山一朗教授のご厚意により、会食に参加させていただき、韓国、マレーシア、中国の先生方と交流する機会を得ました。韓国では胃がん手術が集約化されており、首都圏では 1 病院あたりの症例数が非常に多く、私と同世代の先生が、(ロボット手術は保険未収載のため)腹腔鏡手術を中心に 1 週間に 9 例もの胃がん手術を行っていると同いました。症例数の増加により、研究の実施も容易になっているとの話を伺い、日本においても、早期にエビデンスを構築するための臨床試験という観点からは、ある程度の集約化が必要だと感じました。一方で、マレーシアでは胃がん手術は少なく、胃外科は Gastric bypass を中心とした肥満外科手術が主流であると伺いました。来年、名古屋で宇山一朗教授のもと開催される日本胃癌学会総会には、ぜひ海外の先生方にもご参加いただけるようお願いしてまいりました。

今回の学会参加を通じて、韓国における最新の胃がん治療に関する知見を得られたのみならず、海外の先生方との交流も深めることができ、非常に有意義な経験となりました。この学びを今後の胃がん治療に活かしていきたいと考えております。また、韓国はアクセスが良

く、現地の先生方も大変親切に対応していただけたため、今後もぜひ参加を続けたいと思います。

改めて、この度はご支援を賜り、誠にありがとうございました。



「南大門」20年ぶりに訪れたソウルの夜景は、洗練された雰囲気が感じられました。



「KINGCA WEEK 2024 Opening Ceremonyの様子」



「宇山一朗教授と私」（須田教授はご発表後、ご所用により先に帰国されました）



「来年（2025年）の第97回日本胃癌学会総会のポスター」

会場に多数掲示されており、韓国胃癌学会と日本胃癌学会の結びつきの強さを感じました。